

各位

会社名 北日本紡績株式会社  
 代表者名 代表取締役社長 粕谷 俊昭  
 (コード：3409、東証スタンダード)  
 問合せ先 取締役 篠原 顕二郎  
 (TEL. 076-277-7530)

**連結決算における棚卸資産評価損及び特別損失、個別決算における特別損失の計上、  
 並びに2022年3月期連結業績予想数値と実績値の差異に関するお知らせ**

当社は、2022年3月期第4四半期の連結決算において、下記のとおり棚卸資産評価損及び特別損失（減損損失）を計上するとともに、個別決算において、下記のとおり特別損失（関係会社株式評価損及び関係会社事業損失引当金繰入額）を計上した結果、2021年5月14日に公表しました2022年3月期連結通期業績予想数値と本日公表の実績値に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 棚卸資産評価損及び特別損失（減損損失）の計上について

2021年3月期より新規事業として開始したヘルスケア事業につきましては、当事業年度においては純国産マスクの品質面、JIS規格適合品であることを評価され継続的に受注をいただいております。品質の高さをアピールする方向へとシフトする一方で、海外産の原材料とそれを使用して生産した不織布マスクにつきましては市場ニーズの低下から販売数量が減少傾向にあり、追加生産の目途も未定となっております。それに伴い、棚卸在庫として保管している海外産の原材料（不織布、紐等、合計564kg、期末帳簿価格4,684千円）及び生産済み不織布マスク（合計842千枚、期末帳簿価格6,833千円）について、販売の見込みが立っていないことから、帳簿価格を0円まで引き下げて全額を売上原価に算入するとともに、2台保有する製造機械のうち1台は稼働を停止させており再稼働の目途が立っていないことから遊休資産として扱い、期末帳簿価格7,389千円を0円まで引き下げ減損損失を計上する処理を行いました。

以上の結果、個別および連結決算においては、営業損失が11,517千円、税金等調整前当期純損失が18,350千円それぞれ増加し、親会社株主に帰属する当期純損失は128,098千円となりました。

2. 特別損失（個別決算：関係会社株式評価損及び関係会社事業損失引当金繰入額 連結消去）の計上について

当社は2021年3月期に株式会社中部薬品工業の完全子会社化により、新規事業の領域拡大として、大手医薬品卸会社の協力を得ながら、不織布マスク、健康食品、及びオーラルケア等衛生製品の販売事業に参入いたしました。しかしながら、株式会社中部薬品工業の既存製品リニューアルに伴う現行品の大量返品や、新製品のリリースの遅れ等に起因する業績悪化により、当該子会社個別決算にて純資産に欠損が生じたため、株式の実質価値が著しく低下していると判断するに至りました。

当社の個別決算においては、中部薬品工業に係る関係会社株式の期末帳簿価格4,001千円を0円まで引き下げるとともに、同社の純資産の欠損相当額13,454千円を関係会社事業損失引当金として計上した

ことで、関係会社株式評価損 4,001 千円、及び関係会社事業損失引当金繰入額 13,454 千円を特別損失に計上しております。

なお、上記は連結調整にて適切に相殺消去されていることから、連結財務諸表への影響はありません。

### 3. 2022年3月期通期の連結業績予想数値と実績値との差異（2021年4月1日～2022年3月31日） （2021年4月1日～2022年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利 益	1株当たり 四半期純利 益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円銭
前回発表予想（A）	1,015	1	9	5	0.33
実績値（B）	830	△140	△129	△128	
増減額（B－A）	△184	△141	△138	△133	
増減率（%）	△18.1	—	—	—	
（参考）前期実績 （2022年3月期）	615	△112	△99	△61	△5.69

（差異の理由）

2022年3月期連結期間の業績につきましては、売上高は、主力であるアラミド繊維の受注状況が期首以降、需給好転の流れが継続しており、自動車関連向け紡績糸を主体に強い引き合いが続いたことから、紡績事業においてはほぼ計画と同水準の売上高を達成できたものの、テキスタイル事業につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて海外市場の需要減少が継続したことや、加工場のコンテナ不足および物流費の高騰などによる商品の加工出荷の遅れのため、受注及び出荷ともに当初の計画数量を大きく下回る結果となりました。また、ヘルスケア事業につきましても、上記「1. 棚卸資産評価損及び特別損失（連結決算：減損損失）の計上について」に記載のとおり不織布マスク販売の滞り、及び「2. 特別損失（個別決算：関係会社株式評価損及び関係会社事業損失引当金繰入額 連結消去）」に記載の株式会社中部薬品工業の業績悪化により、売上高の実績が前回発表予測を下回りました。

さらに、売上高の減少に加え、M&Aに伴う買収関連費用等が計画を超えて発生したこと、及び事業規模の拡大に伴い、監査報酬をはじめとする諸管理費用が計画以上に増加したことで、販売費および一般管理費が予想を上回り、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益ともに前回発表予想を下回ることとなりました。

以 上